



## 「点を打つ。線をつなげる。」

今年も残り 1 週間となりました。今年は皆さんの n-Stage 第 1 章が始まった年ですね。西高で新たな出会い、新たな経験、楽しい思い出、辛いことなどたくさんあったと思います。あれから 9 ヶ月。すっかり西高生活に慣れ、皆さんの心も体も見えない早さで成長したことと思います。入学前に思い描いていたとおりの高校生活を送れている人もいますが、大抵の人は「こんなはずじゃなかった…」などと感じているのでは？でもそれは、当たり前のことかも知れません。人は誰しも、何事かを始める前は高い理想を掲げるもの（またそうであって欲しいもの）です。でも段々と理想と現実とのギャップに苦しめられ、落ち込んだり悩んだりするものなのです。将来への不安を抱えている人も多いと思います。でも、心配しないでください。

「点を打つ。線をつなげる。」12 月 8 日に実施したキャリアガイダンス職業編の演題です。元は iPhone を世に出したスティーブ・ジョブズの言葉で、「今の経験は意味がなくても、未来で必ず役立つ」という人生哲学です。だからこそ、今の目の前のこと（勉強や部活など）に全力を注ぎ（点を打つ）、直感を信じて進むことが大切だと伝えています。講師で本校 OB の鈴木高弘さんは現在、フリーランスの映像ディレクター/フォトグラファーとして Netflix や SECOM, on などの国際企業や国内大手企業の動画や写真を手がけるなど大活躍しています。しかし、初めから順風満帆だったわけではありません。山梨大学で化学を研究、燃料電池の国家プロジェクト研究に携わりながらも、自分の直感を信じて大学院を中退。単身、東京でベンチャー企業に就職し、映像製作技術を学びました。ところが、目標を失い退職。心身を壊して彷徨っているところを友人の誘いから映像の仕事に携わるようになって、現在の職に至ったそうです。常に鈴木さんは目の前のことに打ち込み、まさに「点を打ち」続けててきました。そしてその数々の点を未来に「線をつなげ」てきたのです。簡単には点にならないことがほとんどですが、大切なのは、辛くても「点を打つ」、やり続けること。その点は必ず将来に生きるものだと思います。自分の直感と可能性を信じて、日々、点を打っていきましょう。



鈴木さんが撮影した作品です。

## 保護者の皆様へ 今年一年ありがとうございました。来年も宜しくお願いいたします。

4 月の入学以降、保護者皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。冬休みは何かと家族行事も多いですが、出来るだけ規則正しい生活リズムを保ち、メリハリのある環境作りにご理解とご協力をお願いします。また、来月 1 月 20 日(火)から 2 回目の三者懇談が行われます。これまでのお子様の学校生活の様子や今後の進路等についての情報を交換し、新 2 年次生に向けて今後の指導についての共通理解を図りたいと思いますので、ご参加をお願いします。

1 年次主任 渡邊 晃



## ～1 月行事予定～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	木		元旦	16	金	B	英語検定(準会場 1,2)冬季原付バイク通学許可式
2	金			17	土		大学入学共通テスト総合学カテスト(1,2)
3	土			18	日		大学入学共通テスト
4	日			19	月	A	きずなの日 総合学カテスト(2)大学入学共通テスト自己採点(3)
5	月			20	火	A	三者懇談(1,2)
6	火		冬季休業終了	21	水	A	
7	水	A	休業明け集会	22	木	A	三者懇談(1,2)
8	木	A		23	金	B	三者懇談(1,2)
9	金	A		24	土		土曜講座(1,2年次共通)
10	土			25	日		
11	日			26	月	B	三者懇談(1,2)・出願指導面談(3)
12	月		成人の日	27	火	B	三者懇談(1,2)・出願指導面談(3)
13	火	B	第3回進路希望調査(1,2)	28	水	B	大掃除・前期募集検査会場準備
14	水	B		29	木	家学	家庭学習日(前期募集選抜検査)
15	木	B	春季原付免許取得説明会	30	金	家学	前期募集選抜検査
				31	土		1年次課題論文ポスター発表会

◎先生方からの寄稿 今月は3組の担任 大塩未帆先生、副担任 保坂先生です。

## ニッチな楽しみ

3組担任 大塩 未帆

猫が障子に穴を開けました。穴から出てくる猫の手がかわいいので、そのままにしました。洗濯物を抱えながら動いたらハンガーが引っかかって、障子に穴を開けてしまいました。風通しが良くなったので、そのままにしました。そんなことの積み重ねで、我が家は廃屋の様相を呈しています。

障子の張り替えは、霧吹きで濡らして紙を剥がす、木枠の埃を拭き取る、木枠を乾かす、糊を作る(買えるけど、作ります)、新しい紙を切る、刷毛で木枠に糊をつける、紙を貼る、と複数の工程を経ていきます。正直なところ、面倒くさい作業です。しかし、いざやってみるとそれぞれの工程の中に「お、これはおもしろい」と感じる要素が必ず存在します。のちに乾かすことを考慮しつつ確実に紙を剥がすための水分量の見極め、木枠の組まれ方、濃すぎず薄すぎない糊の濃度調整、無駄のない紙の切り方、紙がピンと張るような糊の塗布量。何回かやるうちに、自分なりのこだわりが出てきます。さらに慣れてくるとアレンジが始まり、時間があつという間に過ぎていきます。疲れませんがそれを超える満足感があり、新しい障子に囲まれた部屋はそれまで以上に居心地が良い気がします。満ち足りるとはこういうことを言うのかもしれません。

障子の張り替えの中にある「おもしろさ」は、外からは地味過ぎて見えにくいものです。でも、誰かが仕掛けた華やかで印象深い「おもしろさ」とは違い、身をもって感じる、手応えのある「おもしろさ」です。そして、一度それに気づくと自分のものの見方はぐっと広がり、さらなる「おもしろさ」を見つけようと様々なニッチに興味を持つようになります。その中に趣味や学びたいこと、将来の夢につながりうる何かが見えてくるかもしれません。

冬休みに「よーし、遊ぶぞ!」と思っているあなた、「遊び」の一つとして、障子の張り替えをしてみませんか。



## 「いつもギリギリで生きていたい生きていたくない」

3組副担任 保坂

今年もあと1週間。みなさんは、どんな1年だったでしょうか。今年は、私の人生にとって衝撃的な出来事がありました。2025年2月12日、夜10時過ぎに「いつもKAT-TUNを応援いただきありがとうございます。ファンクラブ会員の皆さまに大切なご報告があります。」との文面とファンクラブのURLが掲載されたメールが…、解散メールだった。この週はいろいろあって、タイプロの最終審査結果、ジュニアの解体・再編。3月31日に「Real Face」のMVを撮影したスタジオからの配信が夜9時からあり、そしてKAT-TUNはデビュー19年にして解散を迎えました。2025年11月8日、解散後ライブがあり、(KAT-TUNはデビューの1週間前に東京ドームライブを行っている。)解散後ライブで泣くのかなと少し期待していたけれど、全く泣けなかった。泣く要素がほとんどなかった。青春があっさり終わってしまった。大量爆破とともに。さて、これまでの人生で、「あーすればよかったな」「こうすればよかったな」といった想いがあったり、「嫌だな」と思ったりすることもあるのではないかと思います。自分もそうです。でも、1年後かもしれないし、5年後かもしれないし、10年後かもしれないし、20年後か、それ以降かもしれないけど、その時に振り返ってみたら、その時には違う感情になっているかもしれない。何言っているわかりにくいですが、自分は(その時に失敗したら反省はしますが、)なるべく早く切り替える、溜め込まないようにしています。気持ちの余裕、安定が必要です。ギリギリを攻めてはいけません。

最後に、西高の図書館に右の本が置いてあるのですが、12月18日に確認してもらったのですが借りられたことがないようです。興味あったら、借りて読んでくれたら嬉しいです。来年は今年よりもよい1年になりますように。

